

国語  
読解の基礎  
〈高学年用〉

---

もくじ

第1章	つながりことばの問題	……
第2章	指示語の問題	……
第3章	書きぬき問題	……
第4章	選択式の問題	……
第5章	気持ち・性格を読み取る問題	……

〈本書の特色〉

▼国・私立中学入試の国語突破のための基礎力をつける！

何をどうやれば基礎力がつくのか？ どのくらいできれば基礎力がついたとわかるのか？ 確かに、算数などと比べると、国語の基礎力の領域と水準（レベル）はつかみづらいと言われています。

そこで本書では、読解の基礎を「つなぎことば」「指示語」「書きぬき」「選択式」「気持ち・性格を読み取る」の五つの設問形式と定義づけ、それぞれの代表的（典型的）問題を解きこなすための力を国語の基礎力と位置づけています。

▼五つの設問形式を徹底反復！

各章では、文章は違っても、同じ考え方（解き方）を使って解く類似問題が続いていきますから、知らず知らずのうちに、前述の「読解の基礎」を繰り返して学習し、身につけていくことができます。

▼収録した長文は全て中学入試に出題された良文！

近い将来に中学入試を迎える受験生のみなさんにぜひとも読んでほしい、味わってほしい文章という観点から収録長文が選定されています。

▼A↓B↓Cの難易度配列で、徐々に力をアップ！

難易度は、文章の難しさや長さ、問いの難しさやひねり具合などを総合的に判断してつけています。

▼《ワンポイント・テクニック》と詳しい解説で力を伸ばす！

《ワンポイント・テクニック》は、国語の先生が「ここはポイント！」と太字で大きく板書するような内容とも言えるものです。さらに、詳しい解説によって、理解を深めていくことができます。

▼充実したコラムは、一味違う読みごたえ！

随所に配置したコラム欄には、読解に役立つテクニック、考え方はじめ、読書案内、入試情報など、勉強に役立つさまざまな一言アドバイスが満載です。

〈本書の使い方〉

▼順に演習を積み重ねていきましょう！

本書の問題は、順を追うごとに難易度が高くなり、また、前で学習した解き方・考え方が後で生かされていくように配列されています。よって、章ごとに一回目から順に解いていきましょう。（章の順番も、特別な弱点がない場合は、第1章からやってみていくことをおすすめします。）

▼問題をやり終えたら、必ず解説も読んでおきましょう！

毎回の演習が単なる答え合わせで終わらぬよう、解説を読みながら、「なぜまちがえたのか？」ということにこだわり、正解を導くための考え方、目のつけ所をおさえるようにしましょう。正解した場合も、解説を読んで、自分の考え方との間にずれがないかどうかチェックしてみてください。

# つなぎことばの問題

1

難易度㊤

〈関東学院中・改〉

人間は自分の抱いだいているイメージが裏切うらぎられるとガツクリする。そのイメージが鮮あざやかであればあるほど、拍子抜けひょうしゅけは大きい。そこで人間は、本能的ほんのうてきに自分の持つているイメージに合わせて対象を見ようとす。つまり、自分のイメージに合わないものごとを、意識いしきてき的に、あるいは無意識むいしのうち無視むししたり、切り捨すてたりするのである。

話はとぶが、ぼくはよく世界各地を遺跡いせきをたずねて歩く。

(1) 胸むねに描えがいていたイメージと実際の遺跡いせきとは、たいてい、くいちがっている。(2) ぼくの遺跡いせきへの旅は、ほとんどが\*落胆らくたんと失意しやういの旅である。せっかくやって来たのに、イメージとまるでちがっているのは、なんともやるせないものである。けれども、ぼくは思い直して、実際は実際なのだと自分にいきかせ。そうすると、それはそれで、またおのずから別のイメージを生み出してくれるのである。

ぼくは遺跡の写真を何枚なんまいも撮とって帰り、それをカメラ好きの友人に見せた。すると彼は一見いちけんして、「こりやだめだな、使いものにならんよ」と、さも軽蔑けいべつしたようにいった。そして、ぼくにこう教えた。

「カメラというのはね、労を惜おしんじやいけないんだよ。ほんのちよつと移動いどうしてみる、(3) 高さを変えて撮る、そうすればいい写真になるんだ。見ろよ、電線が入いちまつてるじゃない

20

15

10

5

か。これじゃ、ぶちこわしだよ。こんなものはよけて撮らなくちゃあ」

……(中略)……

写真というのは、實際をうつすものではけっしてない。人びとは自分の目でありのままを見ているつもりになっているが、じつは、自分の目以上に、自分のイメージで対象を見ているのである。そして現実げんじつの事物が自分のイメージどおりだったときには、はじめ、それをなまなましい現実だと思い、反対に、それが自分のイメージと\*いちじるしくちがつていると、むしろ現実を非現実のように思ってしまうのである。(4) 人間にとっては、自分の抱いだいているイメージのほうが、現実そのものよりも現実なのだ。だからシユメールの聖塔せいとうや、エジプトのスフィンクスをうつしたぼくの写真を見たとき、友人は舌打ちしたうしたのである。それは彼にとつては、遺跡いせきに\*あるまじき風景であり、およそ非現実的のように思われたのだ。

(森本哲郎「『私』のいる文章」)

\*落胆……がっかりすること。

\*いちじるしく……目立ってはつきりしている様子。

\*あるまじき……あってはならない。

問 (1) (2) (3) (4) に入ることばを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だから イ ところが ウ あるいは エ つまり

1

2

3

4

35

30

25

## コラム 1

次の例を見てください。



- ① A君が休んだ。
- ② ( 1 )、ぼくが代わりに出場した。
- ③ ( 2 )、いい結果は残せなかった。

「しかし」と「それで」をどちらかに入れるとき、あなたはどのように答えますか。( 1 )に「それで」、( 2 )に「しかし」を入れるのが自然ですね。

ここで一つ問題なのは、( 1 )を無視して、②と③の文だけの関係を考えて、( 2 )に「それで」を入れても意味が通じてしまうということです。ところが、( 1 )に「しかし」を入れると、不自然な日本語となってしまう。

このように、あるつなぎことばを入れる場所が二か所以上考えられる場合は時々あり、その場合は、残ったつなぎことばの入り具合を確かめてみる必要があるのです。つなぎことばの問題では、同じ記号を一回しか使えない場合がほとんどなので、この例で言うと、( 2 )に「それで」を入れても得点にはならないことに注意してください。

## つなぎことばの問題 2

難易度④

〔川村中・改〕

人類が生まれたのは地球の歴史からいえばわずか一〇〇〇分の一という、ごく最近です。はじめのうちは、人類の活動は地球にとつては何の影響もない小さなできごとにすぎませんでした。森の木を切り倒して農業をはじめたのも、その木を燃やして食事をつくったのも自然破壊にはちがいありません。(1) その規模は、地球が自然に回復する能力を越えなかったのです。

(1) 最近はこちらがいます。とくに十九世紀以来、人類が急激に増えたばかりではなくて、人類の活動も拡大して地球の回復能力を越えてしまいました。(2) 人類の活動は地球全体に影響するようになっていきました。地球にある電気や水は、地球がいつ頃だけつくってくれたものであることを人類は忘れてしまったのでしようか。いや、こういったことがわかったのは一〇年前か二〇年前ほどの最近ですから、人類はこういった事実を知らないまま活動を拡大してきました。

減っている熱帯雨林の話や酸性雨に痛めつけられているヨーロッパの森の話は聞いたことがあるでしょう。いや、森にはかぎりません。鉱物資源でも水でも、人類はいまや手に入る自然を利用しただけ利用するようになっていきました。(3)、こうして自然を利用するようになったから、人類のいまの文化はあるのです。

(1)、(2)には私たちが考えなければならぬむずかし

20

15

10

5

い問題があるのです。それは、人類が手が届く財産を勝手に利用しただけ利用しようという時代がいつまでもつづいていいのだろうかという問題です。

一つは資源そのものを使いつくしてしまうかもしれないという問題です。(4) もう一つは、人類が利用したために\*副産物やゴミが出て、それが地球に影響するかもしれないという問題です。

(島村英紀『地球がわかる50話』)

\*鉱物……金属、石、石油など、地中に天然にできるいろいろなもの。

\*副産物……あるものをつくった時に、それにともなつてえられる他のもの。

問 (1) (2) (4) に入ることばを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし    イ 逆にいえば  
ウ そして    エ つまり

1	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>

## コラム 2

☆区別に注意したいつなぎことは①



「すると」と「そして」

\* 「すると」は、「……した結果、……した。」という意味が強い。

(例) 少年は、きく畑まで来ると、ふいに、ばったりたおれました。すると(||ばったりたおれた結果)、そのすがたは、大輪のきくに変わっていききました。

\* 「そして」は、単に行動・動作が連続している様子を表すことが多い。

(例) ソウは、酒を持って遊びに来ました。そして、トウ少年にも、酒をたくさん飲ませたのです。

\* 同じ主語が続く場合に「すると」を使うとおかしい。

(例) × 私は本を開いた。すると、十ページまで読んだ。

○ 私は本を開いた。そして、十ページまで読んだ。  
同じ主語が続く場合、後ろの文の主語は省略しょうりやくされることが多いので注意しましょう。

(右の例文では、後ろの文の主語も「私は」である。)

# つなぎことばの問題

3

難易度A

(文章は前回からの続きです。)

〔川村中・改〕

はじめの問題ではたとえば化石燃料ねんりようがあります。私たちはエネルギーを何からつくり出しているのでしょうか。石油も石炭も天然ガスも、昔の生きものの死体が地球のなかで気が遠くなるほど長い間かかって変化していつつくりられたものです。これらの\*エネルギー源が化石燃料といわれるのはこのせいです。人類は長い間かかってできたこのエネルギー源をたいへんな勢いで使っているのです。(1)、つくりられた時間よりもはるかに短い時間のうちに消費しているのです。

副産物ふくさんぶつやゴミの問題も深刻しんこくです。(2)、人類がエネルギーを使うにつれて、二酸化炭素にさんかたんそが増えてくるという問題があります。自動車や飛行機や船のエンジンが動いたら、かならず二酸化炭素が出ます。工場からも発電所からも出ます。ストーブをたいでも出ます。じつは地球にやさしいはずの電気自動車でさえ、充電じゆうでんするための電気をつくる発電所では大量の二酸化炭素を出しているのです。昔は大量にあつて、地球がようやく海や岩のなかにとりこんだおかげで減った二酸化炭素が、こんどは人類のせい、また増えはじめています。

地球の温暖化おんだんかという話を聞いたことがあるでしょう。はき出された二酸化炭素は、空気のなかでは重いガスですから、地球をかけ布団ふとんのようにおおってしまいます。この目に見えない透明な

20

15

10

5

け布団が、温室のガラスの役目をして、太陽から来た熱を閉じこめてしまうので、地球の温度が上がるのではないかといわれているのです。(3)、地球温暖化は英語では温室効果くわあといわれているのです。

(4)、地球の温度が上がれば世界の気候が変わるばかりではなくて、氷河こへいが溶けて海の水が増え、海面が上がって海ぎわの大都會が\*水没すいぼつするのではないかともいわれています。金星の温度が上がってしまったのは二酸化炭素の布団のせいです。私たちが二酸化炭素を出しつづけるとすれば、やがて地球が金星のようにならないともかぎりません。

(島村英紀『地球がわかる50話』)

\*エネルギー源……エネルギーのもととなるもの。

\*水没……水中にしずんで、すがたが見えなくなること。

問 (1) (2) (3) (4) に入ることばを次から選び、それぞれ記

号で答えなさい。

- ア たとえば      イ つまり  
ウ こうして      エ このため

1	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>

30

25

### コラム 3

☆区別に注意したいつなぎことは②



「また」と「または」

\* 「また」は、二つのことがらを並べたり、前のことから別のことがらをつけ加えたりする。同類語は「なおかつ」。

(例) 大阪へ行った。また、京都へも行った。  
(大阪と京都の両方へ行っている。)

\* 「または」は、前と後のどちらかを選ぶ。同類語は「あるいは」。

(例) 大阪または京都へ行きたい。  
(大阪か京都のどちらか一方へ行きたい。)

「また」と「そして」

\* 「そして」は「また」に比べて、時間の経過を示す意味合いが強い。

(例) 大阪へ行った。そして、京都へも行った。  
(「また」に比べて、大阪へ行った後に京都へ行ったというニュアンスが強い。)

つなぎことばの問題

4

難易度 ㊀

〈中・改〉

〔 〕

問 《 ① 》 《 》 《 ⑤ 》 に当てはまる言葉として最も適切なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。（同じ記号は一回しか使えません。）

- ア
- イ
- ウ
- エ
- オ
- カ

①

②

③

④

⑤

## つなぎことばの問題 5

〈江戸川学園取手中・改〉

二十代から五十代までのさまざまの世代の人が三十人ほど集まり、仕事と人生について語り合う会に参加したことがある。

それだけ年齢が散らばると経歴も実に多様であり、若い方は大学生、年配者は定年間近まで会社勤めを続けた男性、女性は主婦、保母、教師、看護婦、とそれぞれの生活を続けてきた人達が自分の意見を発表するのを聞くのはまことに興味深かった。

A、僕が意外に感じたのは、経験の違いによる仕事についての考え方の開きではなく、逆にほとんどの参加者の意見に大きな共通点の見られることであった。

B、その共通点とは仕事のほかに何かやることがなければ人生はつまらない、というにつきた、参加者達の発言を聞いてみると、仕事は生きるために必要なものではあるが、そこに人生の価値を見いだすのは困難だ、と言外に語っているように思われた。

C、人生について論じる場合、仕事は関心の外にあるといった印象さえ受けた。

D、仕事とは日々繰り返し返されるものであり、生活そのものであり、取りたてて思考の対象に置きにくい傾向にあるのは事実だろう。人生を充実させるような何か面白いものは日常の暮らしの外にあるのだ、と考えたくなるのは理解できる。

E、集まった人々が自然に口を開くとき、仕事の影があまりに薄いには僕は驚かざるをえなかった。

20

15

10

5

〔黒井千次『働くということ』〕

問 空欄A～Eに適切な言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 要約すれば      イ それにしても  
ウ むしろ          エ しかし  
オ たしかに

A

B

C

D

E

### コラム 4

問題5で出てきた「要約すれば」「それしても」「むしろ」「たしかに」ということばは、文法の上ではつなぎことば（接続詞）ではありません。ただ、このようなことばは、文の前後関係をとらえる上で大切なことばであり、本書ではこのように接続詞に近い働きをすることばも一種の「つなぎことば」と考え、問題の中に入れてあります。

このようなことばは、入試問題においても、つなぎことばの問題の選択肢に出ていますので、それぞれのことばの持つ働きをおさえておきましょう。

